

参考資料意見照会結果とその対応方針

番号	意見者	該当箇所				意見	理由	修正方針	修正案	確認事項
		区分	章	節	節ページ					
1	全地連01	001-全体				地質・地盤リスクマネジメントに関する事例が報告されてくることも多くなると思いますので、それらも踏まえて参考資料を適時追加・更新するようにはしていただければと思います。		D	-	
2	全地連02	003-資料	資料-1		p.1-3	還元性流下鉄 → 還元性硫化鉄		C	ご指摘の通り修正します。	
3	全地連03	003-資料	資料-2		p.2-01	表-1の行見出しが一つになっているので分ける。左列から、区分、類型、要素など		C	ご指摘の通り修正します。	
4	全地連04	003-資料	資料-2		p.2-02	文末に評価を記載する。例) A型のように計画段階、調査設計段階の事業早期段階から取り組むことにより、適切な対応が実施できることが分かる。		D	該当箇所は分析手法の項であるためこのままとします。	
5	全地連05	003-資料	資料-2		p.2-04	表-4のタイトルは「・・・割合」となっているが、表中の数値は件数のようであるので、矛盾がないように修正する。		C	タイトルを「要素の数」に修正します。	
6	全地連06	003-資料	資料-2		p.2-04	文中のパーセントの根拠が分かりづらいので工夫する。例 B型15%はどこから読みとれるのか(発生場の予想が困難な要因2件と発生時期の予測が困難な要因5件をたした7件/全47件だと思うが。それならば、文中の表記は「発生場ならびに時期の予測が困難」になる)		C	「発生場及び発生時期の予測が困難」に修正します。	
7	全地連07	003-資料	資料-2		p.2-06, 2-07	【B型について】の3行目に出てくる36%が図-3のB-1の「地形に関するリスクの見逃し18%」と「地質構造・地質特性に関するリスクの見逃し18%」を加算したものであると思われるが、文が分かりにくい。 同様に、「地質調査の未実施などが36%」とあるがB-1のグラフでは「地質調査未実施24%」であり矛盾している。		C	「地形や地質構造・地質特性に関するリスクの見逃し」「地質調査の未実施・地形図の精度不足」にそれぞれ修正します。	
8	全地連08	003-資料	資料-2		p.2-08	「CMによる施工管理と地質技術者の参画」のCMは、本資料を読む誰もが理解できるテクニカルタームでしょうか。		D	土木事業を扱う関係者であれば一般的な用語であると考えるためこのままとします。	
9	全地連09	003-資料	資料-2		p.2-10	「CM方式」も上記(全地連08)と同様(略称は原則、初めて出てきたときに正式なスペルを()に記すか、日本語訳をつける方が親切だと思います)		D	土木事業を扱う関係者であれば一般的な用語であると考えるためこのままとします。	
10	全地連10	003-資料	資料-2		p.2-13,2-15,2-17	なるべく図の解像度を上げていただきたい。		C	解像度を上げた図に差し替えます。	
11	日建連01	003-資料	資料-2	(1) リスク要因となった要素の割合	p.2-04	表-4 右上の罫線が消えている。		C	ご指摘の通り修正します。	

修正方針の区分
 A: 修正内容について検討・議論が必要なもの
 B: 修正が必要なものかどうか確認するもの
 C: 意見通り修正するもの
 D: 修正が必要ないもの(記述済み、見解の相違)
 E: ガイドラインの対象外(今後対応を検討するもの)
 F: 参考資料に記述するもの

番号	意見者	該当箇所				意見	理由	修正方針	修正案	確認事項
		区分	章	節	節ページ					
12	全地連11	003-資料	資料-3		p.3-01	目次では「・・・取り組みの例」となっているが、3-1では「・・・取り組み」になっている。		C	p.3-1の章題を「・・・取り組みの例」に修正します。	
13	全地連12	003-資料	資料-3		p.3-01	最終段落のみ書き出しが「4では」となっていないので、揃えた方が分かりやすい。		C	「4では」から始まる文章に修正します。	
14	日建連02	003-資料	資料-3		p.3-04	技術士・総合技術管理部門の表記が、総合管理部門となっている。		C	ご指摘の通り修正します。	
15	全地連13	003-資料	資料-3		p.3-14	中ほどに「九州地方整備局によるアンケートが行われている」とあるが、九州地方整備局は必要か。上の行で国土交通省「・・・」の中で、とあるので、省略してもわかるのではないのでしょうか。		C	ご指摘の通り修正します。	
16	全地連14	003-資料	資料-3		p.3-16	ガイドラインでは、地質（・地盤）技術者、設計技術者、施工技術者と名称を定義していますが、本参考資料はそのあたりは気にしなくてよいということでしょうか。		C	引用箇所については原文のままにする。その他の箇所については、ガイドラインに合わせた名称に修正します。	
17	日建連03	003-資料	資料-4		p.4-1	(表-1参照)とカッコ内に参照と記載されている。		C	参照を削除します。	
18	建コン01	003-資料	資料-4		p.4-5	7行目の事例も事例1から3に→この事例も事例1から3に		C	ご指摘の通り修正します。	
19	建コン02	003-資料	資料-4		p.4-9	3行目（再掲、図4参照）→（図4参照）		C	ご指摘の通り修正します。	
20	日建連09	003-資料	資料-4	3-2.「全ての関係者間の連携……」	p.4-9	本文は「すべての…」とひらがなでタイトルと異なる。 図4と記載されている。図-4が望ましいか。		C	ご指摘の通り修正します。	
21	日建連04	003-資料	資料-4	事例1	p.4-2	図1と記載されている。図-1が望ましいか。		C	ご指摘の通り修正します。	
22	日建連05	003-資料	資料-4	事例2	p.4-3	図2と記載されている。図-2が望ましいか。		C	ご指摘の通り修正します。	
23	日建連06	003-資料	資料-4	事例3	p.4-4	表2と記載されている。表-2が望ましいか。		C	ご指摘の通り修正します。	
24	日建連07	003-資料	資料-4	事例4	p.4-5	図3と記載されている。図-3が望ましいか。		C	ご指摘の通り修正します。	
25	日建連08	003-資料	資料-4	事例5	p.4-6	図4と記載されている。図-4が望ましいか。		C	ご指摘の通り修正します。	
26	建コン03	003-資料	資料-6		p.6-1	2行～6行 海外と日本の違い 本文のガイドラインに合わせる。		C	ガイドラインに合わせた記載に修正します。	

修正方針の区分		
A：修正内容について検討・議論が必要なもの	B：修正が必要なものかどうか確認するもの	C：意見通り修正するもの
D：修正が必要ないもの（記述済み、見解の相違）	E：ガイドラインの対象外（今後対応を検討するもの）	F：参考資料に記述するもの